



「絵になるまち」を

めざして

リポーター 野口和哉 (幸町)

今、大館は大きく変わろうとしています。市では、短大の設置や大館能代空港をはじめ、たくさんビッグプロジェクトに取り組んでいます。そんな中で、忠犬「ハチ公」を核として地域興しをしようとしているグループ「ホワイトガーデン協会」。興味を持った私は、同協会の計画などを会長の石川成さんに伺いました。

ホワイトガーデンを

まちづくりの指針に

私たちが目指しているホワイトガーデン構想には、七つの基本計画があります。

第一は、施設としてのホワイトガーデンです。これは「忠犬ハチ公」の墓を中心とする「ペット霊園」、秋田犬をはじめいろいろな犬の資料等を展示する「犬の資料館」、訪れた人たちがいつでも自由に散策できる「西洋風庭園」の三つを柱とした施設の建設です。

第二は、自然保護・動物愛護の運動です。大館にはハチ公に代表される秋田犬のほかに、比内鶏、声良鶏、金八鶏の秋田三鶏、ニホンザリガニ（南限生息地）、芝谷地湿原植物群落、長走風穴高山植物群落が、天然記念物として国や県の指定を受けています。それを含めた動・植物の保護です。

第三は、地域産業の発展を図ることです。大館は、古くから秋田杉を生かした林業や伝統工芸品などの加工業、肥よくな土地を生かした農業、豊かな地下資源を生かした鉱業、そして、佐竹、津軽、南部の中間地点としての商業と、バランスのとれた発展をしてきました。しかし、現在それが停滞している状態です。ですから、時代のニーズに合わせた機能・デザインの研究、工法の開発、販路の拡大などが必要です。そのお手伝いをしていく運動です。



左が野口リポーター

第四は、情報発信です。ホワイトガーデン施設建設、自然保護・動物愛護の運動、地場産業の活性化など、私たちの運動が活発になればなるほど情報が集まり発信源となります。

第五は、文化の創造です。ホワイトガーデン施設の中で様々な文化的行事が開催されると、それに触れ合うことができます。そのことは、私たちが培ってきた文化を見つめ直し価値を高める機会につながりますし、新たな文化創造の機会が生じることに

私も、ホワイトガーデン構想の参考にするため、昨年の十月にヨーロッパ視察旅行に参加しました。旅行はイギリス、フランス、ドイツを回るコースで、ロンドン、パリなどの街並みや公園を見ることができました。どの都市も建物などにそれぞれ特徴がありましたが、共通していることもありました。それは、古い建物が実によく保存され、今も生かされていること、街並みに自然をうまく取り入れていること、そして、一軒一軒の建物は個性的なのですが、全体として一つのまとまりをつくりだし、落ち着いた感じを演出して

個性が集まり 落ち着きを演出

にもつながります。第六は、運動の全体的つながりです。第一から第六までの運動は互いに結ばれ、更に大きな流れとなります。そして大館の個性（オンリーワン）を生み出すことにつながります。

第七は、ホワイトガーデンの行事です。今は、私たちの運動の趣旨を理解していただくため、ハチ公の慰霊祭や生誕祭などのイベントを実施しています。いずれは施設を建設し、そこで様々なイベントを開催していきたいと考えています。